

# 「キクとイサム」と私が歩んだ道 2

## 歌手 高橋 エミ

水木洋子のオリジナル脚本を名匠・今井正が映画化、昭和34(1959年)。占領時代の落とし子であるアフリカ系黒人米兵との混血児姉弟が、好奇の視線と差別の中を、明るく生きてゆく様を活写した良心作。

主人公の二人に起用された映画初出演の実際の混血児の存在感あふれる演技が感動を呼ぶ。

実年齢の倍近い老婆に扮する北林谷江の「しげ婆さん」も逸品。

(ぴあシネマクラブ日本映画編2002～2003より)



北区のコンサートは17年続く。歌手として65年歌い続けてきた。

小さいころから歌うのが好きだった。三橋美智也の歌は

一オクターブ下げれば歌えることが判った。

小さい時、「一本刀土俵入り」を歌って賞をもらい嬉しかった。

学校で三橋美智也の「夕焼けとんび」を歌ったら、とんでもないと先生に怒られた。

おばあさんは色々なことをやらせてくれた。

サミーデービスジュニアを見て、タップダンスを習わしてくれた。

タップダンスは音楽に結びついている。

映画の後、お袋さんがわりの水木先生がよく呼んでくださり泊まったりしていた。

中学生の時、自分が音楽をやりたいといったら、服部正先生に

相談してくださり、弟子の吉田 正さんを紹介してもらった。吉田

先生の所には橋 幸夫さんがレッスンにきていた。

吉田先生は次第に忙しくなり、高校入学の前には新婚ほやほや

の江口先生につき、基礎を学んだ。

江口先生は「下町の太陽」「勿忘草」「石川エレジー」などを作った先生です。

最初の頃、日本の歌を歌っていたが、徐々にあきたらなくなり

リズムのある歌に興味が出てきた。

ショーでも歌謡曲の合間に「ダニーボーイ」なんか入れると好評

だった。耳で覚えた曲だが...

歌のデビューは1796年、29歳の遅咲き。いきなりオリジナルLPだった。昭和52年にはシングル盤をだした。

34、5歳の時、米軍キャンプの仕事をしていた松屋先生に3年かけてジャズを一から教えてもらった。お金が大変で、火の車だった。

今、コンサートは歌謡曲・ジャズ・シャンソンの三本立てが希望されて

いる。シャンソンは心の中から詩がでてくる。

ろくでなし、愛の讃歌、バラ色の人生.....

ばっば(おばあさん)が亡くなったが、北区の皆が支えてくれて後援会

ができ(エミの会)、支部が北海道から九州まである。

年に一度、北区オクトピア サクラホールでコンサートを実施している。

歌のほかに、「子供のいじめ」についての講演依頼が増えている。子供達は思春期になるとつっぱってくるもの。集団になると「いじめ」に走る。

いじめられたら、本気になり戦わないといけない!

やられても、やられても 押し返せば相手もこわくなる。

昔も今も、本質的なものは変わっていない。

65歳になって「キクとイサム」の映画を通して始めてみた。

映画を撮っているときは、カット、カット...だが映画を

全部、じっくり見ると若い人たちに伝えたいものを感じた。

今井先生も映画を初めから最後まで初めて通して見た...と言っていました。

時代の古さを感じない... 何か伝わるものがある!

第二次世界大戦がなければ、自分たちみたいな混血児はいなかった...と思う。

インタビューの最後は

高橋さんの歌、

「ありがとう おばあちゃん!」で終る。